3－3. 中心地区につながる開かれた中央図書館

（1） 中央図書館の敷地（候補地）に求められること

多摩市の中央図書館の敷地選定にあたり、都心部環境との関係づけの視点から、図書館協議会は提言をしています。そこでは、必要な条件が整理されています。

① 図書館建築の開架室には十分な広さが必要で、これを可能とする敷地。
② 図書館の周辺用途や道行き環境には、ふさわしい環境がのぞましい。
③ 公共交通機関から徒歩で行ける距離で、アクセスしやすい道行きがのぞましい。
④ 利用者や運営業務の車が行ける道が必要で、十分な駐車場がとれるとなお良い。

このたびの候補地は、施策の工夫次第で、４つの条件が満足されると思われます。

※出典：平成22年4月
多摩市立図書館協議会
「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について（答申）」より
「3.中央図書館はどこに」
敷地選定にあたり都心部環境との関係づけの記載を、策定委員会協議の基礎資料とした。

（2） 中央図書館候補敷地と周辺のつながりのイメージ

・敷地は公園や歩行者専用路に囲まれた、約6000㎡のフラットな切り土造成の安定した敷地です。緑に囲まれて交通や雑踏の騒音のない落ち着いた環境です。
・用途地域は第二種住居専用地域、建蔽率60％、容積率300％、緩い日影規制。
・建築面積は3600㎡まで可能ですから、図書館開架は２層で構成できて理想的。
・敷地内には、駐輪場のほか駐車場は100台以上必要に思われますが、図書館計画を破綻させずに配置や動線を工夫して、魅力的な都市環境の一部としたい。
・敷地や施設を公園に開きつなげるために、中央公園の隣接部側での竹木の整理や築山のしつらえの再整理などが望まれると、基本構想で議論されている。

駅前の商業施設群プロムナード、パルテノン多摩、多摩中央公園、中央図書館へと、多摩市の中心市街地環境がつながり、賑わいのゾーンがひろがっています。中央公園の緑のむこうに、図書館にはふさわしい落ち着いたアカデミックな施設が並びます。ガラス張りの図書館内の活動が公園から見えると愉しい情景です。

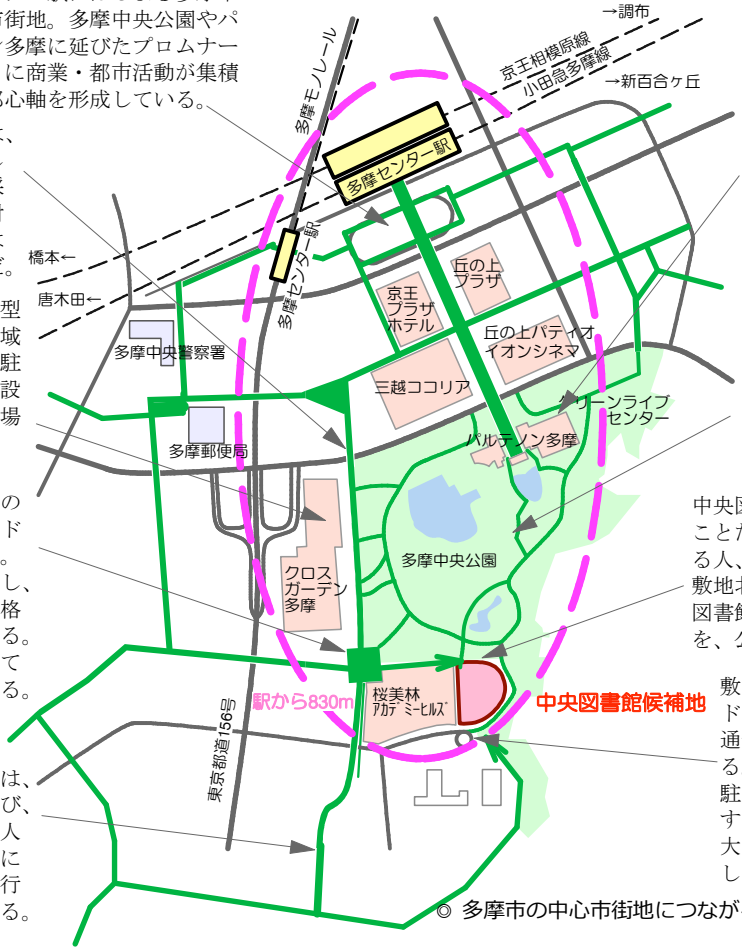
多摩センター駅にはじまる多摩市の中心市街地。多摩中央公園やパルテノン多摩に延びたプロムナード大通りに商業・都市活動が集積して、都心軸を形成している。

多摩ニュータウンの道路は、歩行者と車の動線が交差しない歩車分離システムが採用された。中心駅から放射状にのびる歩行者専用路は段差がなく安全な広場径だ。

歩行者専用路沿いには、大型商業施設が並んでいる。広域な商圏をもち、大きな立体駐車場を備えている。商業施設も、都市住民にとっては広場のひとつといえるだろう。

歩行者専用路、人や自転車の動線が集まる辻広場はノード（焦点）として計画された。人が集まり、出会い、休息し、また動き始める、都市の骨格空間のサテライトにも見える。さて、中央館候補地にとってアプローチ環境の前庭になる。

南に展開する歩行者専用路は、界隈の集合住宅団地をむすび、川のように大勢の子供や大人を集めて、北の中心商業地に導いてゆく。新しくその道行きに中央図書館が構想される。



多摩市民だけでなく近隣市の市民を集めるパルテノン多摩が、リニューアルされる予定。エレベーター設備も再整備されて、中央公園の高台にも、これからは行きやすくなる。多摩中央公園や新図書館へは、便利な最短のアプローチ径になることだろう。

多摩中央公園は、老若男女のひとが集まってくる。芝生に寝そべって、休日の情景をつくっている。池のある催事の広場としても魅力的だ。移築民家は集会展示の拠点となる。

中央図書館の正面は、公園に向くことだろう。公園を通り抜けてくる人、歩行者専用路を使う人も、敷地北側の前庭に集まるだろう。図書館はその賑わいの活動と表情を、公園側に情景として表出する。

敷地の南側には、袋小路クルドサック式道路が取り付く。通過交通が発生しない道となる。図書館への車のアクセス、駐車場、サービス車が利用をするだろう。この焦点にも、大廻りの歩行者専用路が合流して、公園につながっている。

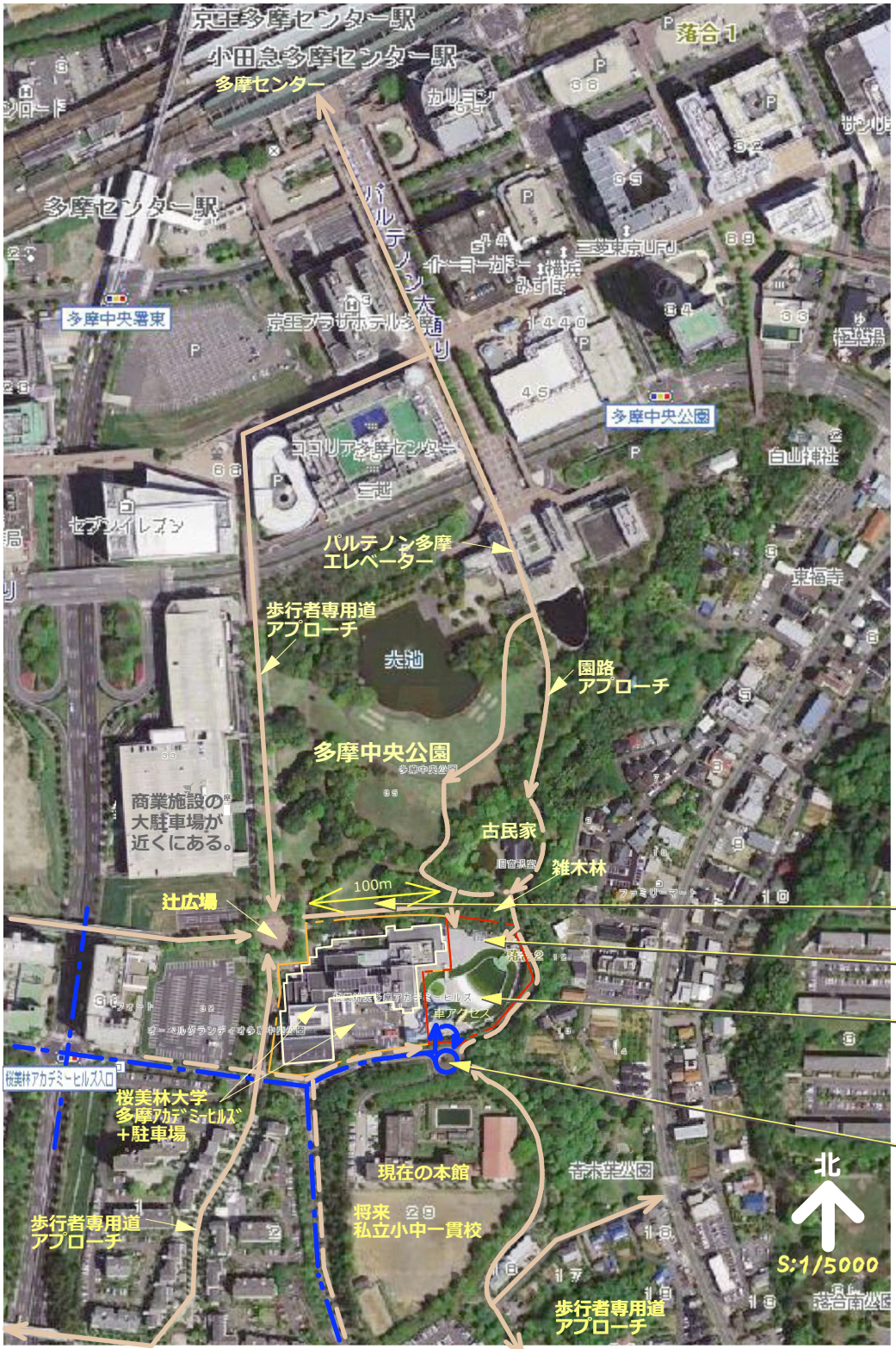
◎ 多摩市の中心市街地につながる中央図書館候補地のイメージ

（３） 中央図書館候補地へのアクセスしやすさとイメージ

○人のアクセス：多摩センター駅から敷地への距離は800m程で２ルートです。
・公園西側に歩行者専用路（レンガ坂）があります。
・パルテノン多摩のエレベーターが改良される予定で、中央公園内を通る道は、階段部の上り下りについても快適な散策ルートとして歩けます。
・南地域にお住まいの方々も歩行者専用路で焦点の辻広場からアクセスできます。
○車のアクセス：南側のサービス車道から、送迎や駐車や業務の車両が入ります。
近隣の公共民間の駐車場も中心市街地ですから、界隈に散在して利用できます。
○駅から敷地までの循環ミニバスの運行も期待されます。

※湘南Ｔ市駅と図書館を結び循環するコミュニティバス。料金は一律150円。浦安では、同様の赤いミニバスが、駅から離れた浦安中央図書館の前まで循環しています。料金は一律100円。

※歩行者専用路の現状勾配がバリアフリー法の勾配規定を満たしているか検証してみたい。



◎ 航空写真で見る中央図書館候補地と周辺のつながりのイメージ

3-4. 市民協働で「もの」と「こと」のデザインを

多摩市の中央図書館とまちづくりを、市民と図書館が一緒に考えてゆくべきです。施設づくりについて基本計画でも情報開示と学習型市民参画が大切。図書館づくりには、資料、職員、施設の３要素で議論をするのが常ですが、それぞれの要素中にも「もの/環境」と「こと/活動」が入っていて、大切な検討の視点になるのです。

多摩市の中央図書館の役割とサービスの中で、図書館協議会は提言をしています。定期的な利用者懇談会の開催や、市民企画展示、市民活動紹介、積極的な市民の意志の取り込みにふれて、その根本は、一人ひとりの求めや利用者ニーズに向き合う職員のあるべき姿であるとしています。そして職員の専門性と採用方式の重要性に視点をつなげて提言がされています。

※人の活動（こと）を深く想定しない施設建設は箱物政策と揶揄されます。基本構想や計画でも、箱（もの）から始まる議論に偏らず、「こと」に注目研究するのが、近年の図書館建築計画学の基本スタンスと言われます。

※出典：平成22年4月
多摩市立図書館協議会
「多摩市における中央図書館機能およびその整備のあり方について(答申）」
地域コミュニティの中核として，より

① どんな資料世界をつくるのか。

こうした議論や計画の前提には、求められている資料や、人や利用のかたちに想像をめぐらす時間があり、それが「こと」のデザインの段階です。

資料の収集では、新刊案内やリクエストを基礎に選書されたり分類が精査され、装備やMARCが決められています。これからは、５年先10年先の開架世界のビジョンを先に定めて、配架や分配を考え複本検討をしたり、構築の優先順序が必要になります。先に骨格を造りあとで肉をつける形式や工程の計画を考えるデザインです。100人の意見を聞くだけでなく、全体を俯瞰して判断する中枢・司令塔が重要で、それが中央図書館の存在理由となります。

ライブラリーフレンズが「本のリサイクル市」

②どんな施設環境をつくるのか。

場の計画の前提として、そこで想定されている活動や、はたすべき機能の量や質の概要を想定する必要があります。図書館施設計画の領分であり、もののデザインです。活動と施設は相関関係があって、施設の不備は活動やその将来の成長を制約して、施設の寿命を短くもします。ことは、ものより先に考えるべきです。他方、魅力的な環境は想像以上に活動を誘発し成長させることもあります。「こと」（出会いや発見や学びや喜び）のデザインは、容れ物である場とともに想像することで、創造的に膨らみます。例えば図書館では、いかに少人数で開架室を運営できるか、それが可能な施設かが、ランニングコストやライフサイクルコストのマネージメントに大きく関係します。経営に叶うことも必要です。

図書館パティオの日曜日「フリーマーケット」

③どんな図書館員が図書館サービスを担うのか。

図書館は75%が図書館員で出来ていると言われてきましたが、正確には、図書館政策であり職員組織であり図書館員個人の意欲とスキルに関わっているということです。基本構想策定委員会は、①図書館サービスを市の直営で行うことの利点②職員が専門性を発揮し職場全体で業務遂行③職員採用や作業内容に見合う職種の活用による人事計画性④専門性継承と将来に向けての持続可能な経営（業務や開館時間に関連）など、今後の研究に方向性と示唆を与えています。経営と人事に関わる「こと」のデザインです。

学校図書館司書さんと一緒に「図書館研究会」

④主体的で自律した市民はどんな協働を想像するか。

多摩市の40年の図書館政策は、図書館を良く知りよく利用する市民を育てました。市民も生涯学習や自己実現を求めて、お話会や点訳朗読奉仕や催事の協働など、図書館での活動を広げました。中央図書館が出来ることで、より多くの多様な市民が、図書館で活動を展開するでしょう。こうした市民の生涯学習やボランティア活動をコーディネートする担当が図書館に必要です。また催事などでは市民の側にも、協働という「こと」のデザインを想像して展開させる、図書館フレンズのような活動もありそうです。

市民が「図書館の誕生日」を祝う